

平成26年度第1回群馬県景観審議会 の概要

H27. 2. 16 都市計画課景観・都市行政係

- 1 開催日時 平成27年1月22日(木) 午前10時00分～午前11時40分
- 2 場 所 群馬県庁第1特別会議室(29階)
- 3 出席委員 小林享、友岡邦之、高橋綾、野村城弘、関戸明子、岩崎比奈子
- 4 欠席委員 西村浩、小林則子
- 5 事務局出席者 (都市計画課) 中島課長、浅田次長、三川補佐、山崎係長
荻野主任、高野技師、尾崎主任、齋藤技師
(道路整備課道路企画室) 本木補佐

6 議 事

- (1) 広域景観形成モデルについて
- (2) その他

7 議事概要(要点)

○なぜ日本ロマンチック街道はこのルートなのか?他にもっといいルートがあるように思う。見直しをしないのか。

○観光はいまやインバウンドに重きを置いている。観光庁がインバウンドのための広域観光ルートの例としてこの日本ロマンチック街道を選んでいる。だからこのルートの整備は必要であろうと思う。

○草津から暮坂峠を越えて高山村に抜けるルートは非常に良い道だと思う。一方、沼田から片品に抜ける所も国道沿いは非常に乱雑なサイン・看板があつて、非常に景観上よろしくないと思う。

○どこが日本ロマンチック街道になっているか、もう少し具体的にわかるような資料を用意して欲しい。

○視認性にいうと、明度差の問題が一番大事なかなと思っている。明度というのは明るい、暗いの差であり、背景と文字の差がしっかり出来ているかどうかによって、看板などの明度差が見えてくる。

○アースカラーの茶色を使うことで自然な景観とマッチし、銀色よりは良いが、明度が低

い暗い色と白っぽい空の対比があると、その形が結構強く見えてきてしまう。その場所場所ですっきりと見極めて行かないといけない。これはこうだという風に決めつけるのは、後で問題になってくる可能性がある。

○道路を移動する時の時間をどのように豊かに提供するかというのが基本にあると思う。そのために景観サイドとして何が出来るか。見にくいものを隠したり、美しい風景を演出したり、そういう問題になると思う。例えば行政界を越えて、ABCという市町村内で、違った考え方を持たれると困るので、道路軸において県が音頭を取りながら、屋外広告物等の調整をしていくことになると思う。

○屋外広告物に関しては、屋外広告美術業協同組合に管理を任せてもらえばいいと思う。特に、新しい上信自動車道出口にあっては規制の状況を踏まえて検討して頂きたい。

○屋外広告物規制の問題に関しては幾つかの自治体が行き組みを進めているが、その中では伊勢崎市がかなり業績を上げていていると聞いている。もし可能ならば、伊勢崎市の担当の方に来てもらい、どういう形の行き組みが成果を上げたのかなどをお話し頂くと非常に分かりやすいと思う。

○群馬県として、日本ロマンチック街道として、また基礎自治体レベルで、カラーアイデンティティーの整備が進むと、移動の際の楽しみが増えていく。例えばロマンチック街道を移動していく最中にいろいろな市や町を通過していくが、それがその町々によってカラーアイデンティティーの違いというのが見えてくるような工夫があると、移動そのものが観光政策としてすごく意味をもってくることになるのではないかな。

○長野県木曾地域で広域で共通のサインを作っていて、乗車中に、車で移動中も見えてくる看板も統一感があるという様な事例もある聞いている。地元の間伐材を活用した沿道景観の修景事例を情報提供してみたい。

○観光において景観というのは、第1に「景観自体が目的になる」というものと、第2に「目的にはならないが、その場所の雰囲気醸し出し良いと思わせる様なもの」、それから第3に、「マイナスのものを除いてゼロにする、さらに良いものを作って1とか2とかにしていく」という、3つくらいに分けられると思う。今回の審議会でも求められているというのは、目的地の景観を考えるのではなくて、おそらくは2番目の車で移動中に雰囲気を醸し出す、若しくは3番目の邪魔をしない看板の検討ではないかという理解をしている。

○観光情報の提供のために看板を設置しているかと思うが、スマートフォンとかアプリの活用によって、看板そのものが要らなくなっているんじゃないかなと思う。観光客の手の中に情報があればハードとしての看板は要らないのではないかな。時代感覚を踏まえた景観のあり方というの、これからの課題になると思う。

○1階で「ググッとぐんま」の観光パンフレットをもらってきたが、ここに日本ロマンチック街道が乗っていなかった。それ自体が問題じゃないかと思う。これでは皆さんが一所懸命検討されていること自体が消費者の方に伝わらない。観光部門と連動してきっちり情報発信することが大事である。